

令和4年度 下水道事業会計決算の概要

(1) 令和4年度予算の執行実績

ア 収益的収入及び支出

収入

(消費税込, 単位: 円)

区分	R4予算現額 A	R4決算額 B	差引額 B-A	執行率	R3決算額 C	増減額 B-C	増減率
第1款 下水道事業収益	4,490,364,000	4,369,907,950	△120,456,050	97.3%	4,442,982,215	△73,074,265	△1.6%
第1項 営業収益	3,123,326,000	3,050,866,480	△72,459,520	97.7%	3,107,256,018	△56,389,538	△1.8%
第2項 営業外収益	1,367,037,000	1,319,041,470	△47,995,530	96.5%	1,334,919,921	△15,878,451	△1.2%
第3項 特別利益	1,000	0	△1,000	0.0%	806,276	△806,276	皆減

支出

(消費税込, 単位: 円)

区分	R4予算現額 A	R4決算額 B	執行率	地方公営企業法第 26条第2項の規定による 繰越額 C	不用額 A-B-C	R3決算額 D	増減額 B-D	増減率
第1款 下水道事業費用	4,433,800,185	4,267,778,695	96.3%	0	166,021,490	4,411,577,435	△143,798,740	△3.3%
第1項 営業費用	4,326,553,185	4,170,081,259	96.4%	0	156,471,926	4,271,921,561	△101,840,302	△2.4%
第2項 営業外費用	102,246,000	97,697,436	95.6%	0	4,548,564	139,655,874	△41,958,438	△30.0%
第3項 特別損失	1,000	0	0.0%	0	1,000	0	0	-
第4項 予備費	5,000,000	0	0.0%	0	5,000,000	0	0	-

イ 資本的収入及び支出

収入

(消費税込, 単位: 円)

区分	R4予算現額 A	R4決算額 B	差引額 B-A	執行率	R3決算額 C	増減額 B-C	増減率
第1款 資本的収入	1,365,857,000	1,144,999,424	△220,857,576	83.8%	406,749,329	738,250,095	181.5%
第1項 企業債	1,237,800,000	1,015,200,000	△222,600,000	82.0%	352,200,000	663,000,000	188.2%
第2項 国庫補助金	50,000,000	50,147,000	147,000	100.3%	0	50,147,000	皆増
第3項 都補助金	2,500,000	2,496,000	△4,000	99.8%	0	2,496,000	皆増
第6項 他会計負担金	70,116,000	71,716,071	1,600,071	102.3%	54,549,329	17,166,742	31.5%
第8項 分担金及び負担金	5,441,000	5,440,353	△647	100.0%	0	5,440,353	皆増

支出

(消費税込, 単位: 円)

区分	R4予算現額 A	R4決算額 B	執行率	地方公営企業法第 26条の規定による 繰越額 C	不用額 A-B-C	R3決算額 D	増減額 B-D	増減率
第1款 資本的支出	1,753,575,000	1,483,435,999	84.6%	72,513,900	197,625,101	1,095,100,415	388,335,584	35.5%
第1項 建設改良費	1,423,996,000	1,158,878,949	81.4%	72,513,900	192,603,151	629,585,699	529,293,250	84.1%
第2項 固定資産購入費	142,000	121,000	85.2%	0	21,000	120,615	385	0.3%
第3項 企業債償還金	324,437,000	324,436,050	100.0%	0	950	465,394,101	△140,958,051	△30.3%
第6項 予備費	5,000,000	0	0.0%	0	5,000,000	0	0	-

資本的収支不足額

当年度			前年度			増減額 C-F
資本的収入額 A	資本的支出額 B	資本的収支 不足額 C=B-A	資本的収入額 D	資本的支出額 E	資本的収支 不足額 F=E-D	
1,144,999,424	1,483,435,999	338,436,575	406,749,329	1,095,100,415	688,351,086	△349,914,511

資本的収入及び支出予算は、通常、収入が支出より少なく、その不足分（資本的収支不足額）の資金的裏付けとなる財源が「補てん財源」

資本的収支不足額3億3,843万6,575円は、以下の補てん財源により補てん

補てん財源の額

内訳	当年度			前年度			増減額		
	留保額 (使用可能額)	補てん額 (使用額)	差引残高	留保額 (使用可能額)	補てん額 (使用額)	差引残高	留保額 (使用可能額)	補てん額 (使用額)	差引残高
消費税及び地方消費税資本的 収支調整額 ※1	89,007,087	89,007,087	0	49,053,428	49,053,428	0	39,953,659	39,953,659	0
過年度分損益勘定留保資金 ※2	414,713,670	249,429,488	165,284,182	466,753,817	466,753,817	0	△ 52,040,147	△ 217,324,329	165,284,182
当年度分損益勘定留保資金 ※3	584,963,364	0	584,963,364	587,257,511	172,543,841	414,713,670	△ 2,294,147	△ 172,543,841	170,249,694
計	1,088,684,121	338,436,575	750,247,546	1,103,064,756	688,351,086	414,713,670	△ 14,380,635	△ 349,914,511	335,533,876

※1 消費税及び地方消費税（以下「消費税」という）の納税額を、資本的収支に係る分も含め収益的収支に計上する会計上の仕組みにより、下水道事業会計内部に蓄えられる資金（資本的支出の消費税の額から、資本的収入の消費税の額及び控除対象外の消費税を差し引いた額）

※2 過年度における減価償却費等の現金の支出を伴わない費用の収益的支出への計上により、財源として下水道事業会計内部に蓄えられた資金のうち、当年度への繰越資金残高

※3 当年度における減価償却費等の現金の支出を伴わない費用の収益的支出への計上により、財源として下水道事業会計内部に蓄えられる資金

(2) 令和4年度経営総括

【貸借対照表で示される令和4年度末時点における財政状態】

①資産

- ・資産合計額298億9,195万円余のうち、固定資産が284億6,491万円余で前年度比7億1,967万円余の減、流動資産が14億2,703万円余で前年度比4億238万円余の増
- ・流動資産のうち、当年度末時点の現金預金残高は11億9,876万円余で前年度比3億7,104万円余の増
- ・現金預金の収支を伴う資産・負債の増減に係る資本的収支について、資本的支出額は、自然流下化事業が前年度比2億9,593万円余の増、老朽化・劣化対策事業が前年度比2億3,894万円余の増、総額で14億8,343万円余となり前年度比3億8,833万円余の増
- ・資本的収入額は、事業費の増加に伴い企業債の借入額が6億6,300万円余の増となり、総額で11億4,499万円余となり前年度比7億3,825万円余の増
- ・資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は3億3,843万円余となり、下水道事業の内部に蓄えられている補てん財源で補てんしたことにより、次年度以降の資本的収支の不足額を補うための補てん財源残高は7億5,024万円余で前年度比3億3,553万円余の増

②負債

- ・負債合計額266億7,166万円余のうち、固定負債が74億7,532万円余で前年度比6億7,350万円余の増、流動負債が10億765万円余で前年度比7,118万円余の増、繰延収益が181億8,869万円余で前年度比10億7,512万円余の減
- ・都市計画道路等整備に伴う下水道整備、浸水対策事業、老朽化・劣化対策事業、自然流下化事業、流域下水道事業を行うため、企業債を借り入れた結果、固定負債・流動負債の企業債残高は合計で78億1,701万円余となり、前年度比6億9,076万円余の増（将来的に負担する額の内訳は、一般会計が48億3,785万円余で、下水道事業会計が残りの29億7,916万円余）

③資本

- ・資本合計額は32億2,028万円余で前年度比1,315万円余の増

【損益計算書で示される当年度の経営状況】

- ・年間の総収益から総費用を差し引いた当年度純損益が1,315万円余の純利益
- ・公営企業会計に移行した令和2年度決算からの当年度純損益の累計額である当年度未処理欠損金は、3,302万円余（営業収益に対する当年度未処理欠損金の割合を表す累積欠損金比率は1.2パーセント）

【財政状態の総括】

- ・現金預金残高や補てん財源残高が、前年度には企業債の繰上償還によって減少した一方、当年度においては、繰上償還の必要がなく、借入時の予定どおりの償還となり、減価償却費等の損益勘定留保資金の当年度計上分を補てん財源として全額蓄えることができたことによる増
- ・企業債の借入状況について、当年度は、主要事業である浸水対策事業、老朽化・劣化対策事業、自然流下化事業に係る建設改良費の増加に伴い、借入額が増加したものの、企業債残高対事業規模比率について類似団体よりも大幅に低い水準である。
- ・今後数年間は、自然流下化事業や浸水対策事業等の重点事業により建設改良費の増加が見込まれることから、元利償還に伴う財政負担と世代間の負担の公平性のバランスを考慮し、企業債を有効に活用していく。

【経営状況の総括】

- ・減価償却費及び総係費の下水道使用料徴収委託料等が減少したことにより、公営企業会計に移行後、初めて純利益を計上
- ・今後の下水道事業を取り巻く環境は、下水道施設の老朽化及び物価上昇等に伴う維持管理費の増加に加え、下水道管更新に伴う支出の増加が見込まれる一方、収入については、人口減少に加え、節水技術の進展及び市民等の節水意識の向上により下水道使用料の減収を想定
- ・中長期的な収支見通しを踏まえ、事業の重点化や財源確保に向けた検討を行うなど、令和2年度に定めた経営戦略（調布市下水道ビジョン）の再検証を行い、持続可能な下水道事業経営を推進していく。

(3) 令和4年度主要事業概要

(単位：円)

◆ No. 94 下水道施設の機能維持		366,808,767			
<p>下水道管路施設の老朽化による道路陥没事故等を未然に防止するため、「調布市下水道ストックマネジメント計画（計画期間：令和3年度～令和7年度）」に基づき、予防保全型維持管理の一環として、老朽化・劣化対策事業を実施した。内容としては、管更生工事（既設下水道管の内面に新管を構築する工法）及びマンホール蓋交換工事（マンホール蓋の飛散による事故を予防保全）を実施するとともに、計画に基づいた点検・調査・修繕に着実に取り組んだ。地震対策については、「調布市下水道地震対策に関する基本方針」に基づき、埋設が浅いため、地震により損傷につながる可能性の高い管径800mm未満の小口径管路の耐震診断を実施し、耐震性能の保有状況を確認した。</p>					
科 目	R4予算現額	R4決算額	執行率	R3決算額	増減率
○ スtockマネジメント点検等委託料	23,056,000	23,051,128	100.0%	22,836,000	0.9%
○ スtockマネジメント補修工事設計等委託料	4,092,000	2,521,418	61.6%	0	皆増
○ スtockマネジメント工事設計等委託料	15,511,000	12,101,982	78.0%	9,329,100	29.7%
○ スtockマネジメント工事費	290,400,000	263,126,600	90.6%	0	皆増
○ 仙川汚水中継ポンプ場費（管理・点検等委託料その他維持管理費）	57,390,000	53,577,639	93.4%	52,786,886	1.5%
○ 地震対策委託料	29,066,000	12,430,000	42.8%	1,177,000	956.1%

◆ 令和元年台風第19号対応を踏まえた浸水対策事業

188,364,136

狛江市と連携し、令和元年台風第19号の再度災害防止に向け、「調布市下水道浸水被害軽減総合計画（計画期間：令和4年度～令和10年度）」を策定するとともに、大規模ポンプ施設設置等の対策工事に向けた調査に着手した。また、調布排水樋管のゲート開閉作業を遠隔操作化するとともに、六郷排水樋管のゲート開閉作業の遠隔操作化と、根川第1雨水幹線への逆流防止ゲートの設置に取り組んだ。その他、想定最大規模の雨が降った際、下水道や河川等に雨水を排水できなくなるにより発生が想定される内水浸水に関する最大の浸水深を色分けした内水浸水想定区域図を調布まっぴに反映し、インターネット公開した。

科 目	R4予算現額	R4決算額	執行率	R3決算額	増減率
○ 浸水対策事業委託料 （内水浸水想定区域図調布まっぴ反映・フラップゲート調査）	220,000	385,000	175.0%	23,980,000	△98.4%
○ 根川雨水幹線維持管理負担金	47,066,185	23,441,263	49.8%	7,321,946	220.2%
○ 浸水対策建設改良事業委託料（調布排水樋管遠隔操作化）	40,920,000	29,920,000	73.1%	0	皆増
○ 根川雨水幹線建設改良負担金 （根川第1雨水幹線逆流防止ゲート設置・六郷排水樋管遠隔操作化・六郷排水樋管カメラ設置）	134,704,000	134,617,873	99.9%	10,112,798	著増

◆ 仙川汚水中継ポンプ場の自然流下化に向けた取組

491,476,912

老朽化・災害による停電等、ポンプ場の機能不全リスクの解消や脱炭素社会への貢献、長期的な事業費の縮減のため、令和6年度の工事完了を目指して取り組んでいる仙川汚水中継ポンプ場の自然流下化事業（ポンプによる圧送から下水道管路施設新設による自然流下方式への切替え）として、令和3年度に着工した調布市公共下水道42号幹線新設工事を継続して実施した。

科 目	R4予算現額	R4決算額	執行率	R3決算額	増減率
○ 自然流下化工事費	496,260,000	457,390,000	92.2%	175,700,000	160.3%
○ 自然流下化に伴う移設工事等補償費 （水道管・ガス管・架空線等の支障移設補償額）	60,540,000	29,804,023	49.2%	11,328,210	163.1%
○ 自然流下化に伴う土地賃借料	4,283,000	4,282,889	100.0%	2,012,625	112.8%

(4) 経営実績の概要

ア 業務量

事 項	令和4年度末	令和3年度末	比較		備考
			増減	増減率	
①処理区域内面積	1,954.73ha	1,954.73ha	0ha	0.0%	
②処理区域内人口	238,952人	238,394人	558人	0.2%	住民基本台帳に基づく行政区域内の人口（行政人口）のうち、下水道を使用できる区域内の人口 ※調布市の処理区域内人口＝行政人口
③水洗便所設置済人口	238,905人	238,345人	560人	0.2%	
④水洗化率 ③÷②	99.98%	99.98%	-	-	
⑤年間総処理水量	38,978,485m ³	39,667,065m ³	△ 688,580m ³	△1.7%	下水処理場で処理した水量（雨水処理水量を含む） ※調布市の水量は、森ヶ崎水再生センターに流入した野川処理区の全水量から処理区域面積で按分し算出
⑥一日平均処理水量	106,790m ³	108,677m ³	△ 1,887m ³	△1.7%	
⑦年間有収水量	24,357,182m ³	24,696,351m ³	△ 339,169m ³	△1.4%	下水道使用料の徴収対象となった汚水処理水量
⑧一日平均有収水量	66,732m ³	67,661m ³	△ 929m ³	△1.4%	
⑨水洗便所設置済人口一人当たり平均有収水量 ⑦÷③	102m ³	104m ³	△ 2m ³	△1.9%	
⑩下水道管布設延長	565km	564km	1km	0.2%	
⑪うち汚水管延長	15km	15km	0km	0.0%	
⑫うち雨水管延長	27km	27km	0km	0.0%	

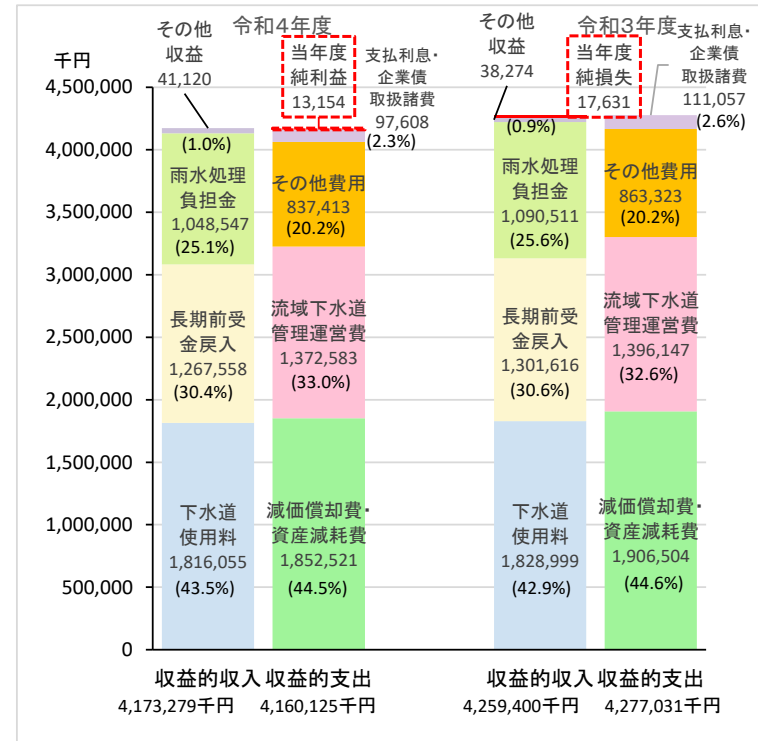
事 項	令和4年度末	令和3年度末	比較		備考
			増減	増減率	
⑬うち合流管延長	523km	522km	1km	0.2%	
⑭管渠清掃延長	21.43km	24.64km	△ 3.21km	△13.0%	
⑮管渠点検延長累計	200.82km	171.29km	29.53km	17.2%	老朽化・劣化対策事業として平成30年度以降に行った管渠点検延長の累計
⑯修繕・改良・更新管渠延長	0.22km	0.35km	△ 0.13km	△37.1%	修繕：施設の現状復旧を図ることを目的とした行為であり、耐用年数の延伸が担保されないもの 改良：施設の耐用年数の延伸が担保される行為であり、改築の一部を成すもの 更新：新たに設置したものと同一期間の耐用年数が確保される行為であり、改築の一部を成すもの
⑰法定耐用年数超過管渠延長	75.04km	38.64km	36.40km	94.2%	法定標準耐用年数（50年）を超過した管渠延長

イ 収益的収支（損益計算書）

（消費税抜，単位：千円）

事項	令和4年度		令和3年度		比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
収益的収入 （下水道事業収益）	4,173,279	100.0%	4,259,400	100.0%	△ 86,121	△2.0%
①営業収益	2,868,869	68.7%	2,923,952	68.6%	△ 55,083	△1.9%
下水道使用料	1,816,055	43.5%	1,828,999	42.9%	△ 12,944	△0.7%
雨水処理負担金	1,048,547	25.1%	1,090,511	25.6%	△ 41,964	△3.8%
その他営業収益	4,267	0.1%	4,442	0.1%	△ 175	△3.9%
②営業外収益	1,304,410	31.3%	1,334,707	31.3%	△ 30,297	△2.3%
長期前受金戻入	1,267,558	30.4%	1,301,616	30.6%	△ 34,058	△2.6%
他会計負担金	33,744	0.8%	30,124	0.7%	3,620	12.0%
その他営業外収益	3,109	0.1%	2,967	0.1%	141	4.8%
③特別利益	0	0.0%	741	0.0%	△ 741	皆減
収益的支出 （下水道事業費用）	4,160,125	100.0%	4,277,031	100.0%	△ 116,906	△2.7%
④営業費用	3,994,380	96.0%	4,095,182	95.7%	△ 100,802	△2.5%
流域下水道管理運営費	1,372,583	33.0%	1,396,147	32.6%	△ 23,563	△1.7%
減価償却費	1,848,957	44.4%	1,901,332	44.5%	△ 52,375	△2.8%
資産減耗費	3,564	0.1%	5,172	0.1%	△ 1,608	△31.1%
その他管理運営費	769,276	18.5%	792,532	18.5%	△ 23,256	△2.9%
⑤営業外費用	165,745	4.0%	181,849	4.3%	△ 16,104	△8.9%
支払利息及び 企業債取扱諸費	97,608	2.3%	111,057	2.6%	△ 13,449	△12.1%
雑支出	68,137	1.6%	70,791	1.7%	△ 2,654	△3.7%
⑥特別損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
a 営業損益 ①－④	△ 1,125,511	-	△ 1,171,230	-	45,719	-
b 経常損益 a + (②－⑤)	13,154	-	△ 18,372	-	31,526	-
c 当年度純損益 b + (③－⑥)	13,154	-	△ 17,631	-	30,785	-

収益的収入は41億7327万9千円で、雨水処理負担金や長期前受金戻入、下水道使用料等の減少に伴い、前年度比8612万1千円の減となりました。
 収益的支出は41億6012万5千円で、減価償却費や流域下水道管理運営費、その他管理運営費等の減少に伴い、前年度比1億1690万6千円の減となりました。
 当年度純損益は、1315万4千円の利益で、前年度比3078万5千円の増となりました。



マイナス表記は営業損失を表す
 マイナス表記は経常損失を表す
 マイナス表記は当年度純損失を表す

※金額は単位未満で四捨五入しているため、計数が一致しないことがある。また、構成比は端数調整していないため、各項目の合計値が100%とならない場合がある。（共に以下同じ）

ウ 資本的収支

(消費税込、単位：千円)

事 項	令和4年度		令和3年度		比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
資本的収入	1,144,999	100.0%	406,749	100.0%	738,250	181.5%
企業債	1,015,200	88.7%	352,200	86.6%	663,000	188.2%
建設改良費等への充当債	1,015,200	88.7%	352,200	86.6%	663,000	188.2%
国庫補助金	50,147	4.4%	0	0.0%	50,147	皆増
都補助金	2,496	0.2%	0	0.0%	2,496	皆増
他会計負担金	71,716	6.3%	54,549	13.4%	17,167	31.5%
分担金・負担金	5,440	0.5%	0	0.0%	5,440	皆増
資本的支出	1,483,436	100.0%	1,095,100	100.0%	388,336	35.5%
建設改良費・固定資産購入費	1,159,000	78.1%	629,706	57.5%	529,294	84.1%
浸水対策事業	164,538	11.1%	56,510	5.2%	108,027	191.2%
老朽化・劣化対策事業	275,229	18.6%	36,279	3.3%	238,949	658.6%
自然流下化事業	491,477	33.1%	195,542	17.9%	295,935	151.3%
流域下水道事業	105,562	7.1%	128,590	11.7%	△ 23,028	△17.9%
一般職人件費(資本的支出分)	39,759	2.7%	37,627	3.4%	2,132	5.7%
その他の建設改良事業	82,435	5.6%	175,158	16.0%	△ 92,722	△52.9%
企業債償還金	324,436	21.9%	465,394	42.5%	△ 140,958	△30.3%
資本的収支不足額	338,437	-	688,351	-	△ 349,915	-

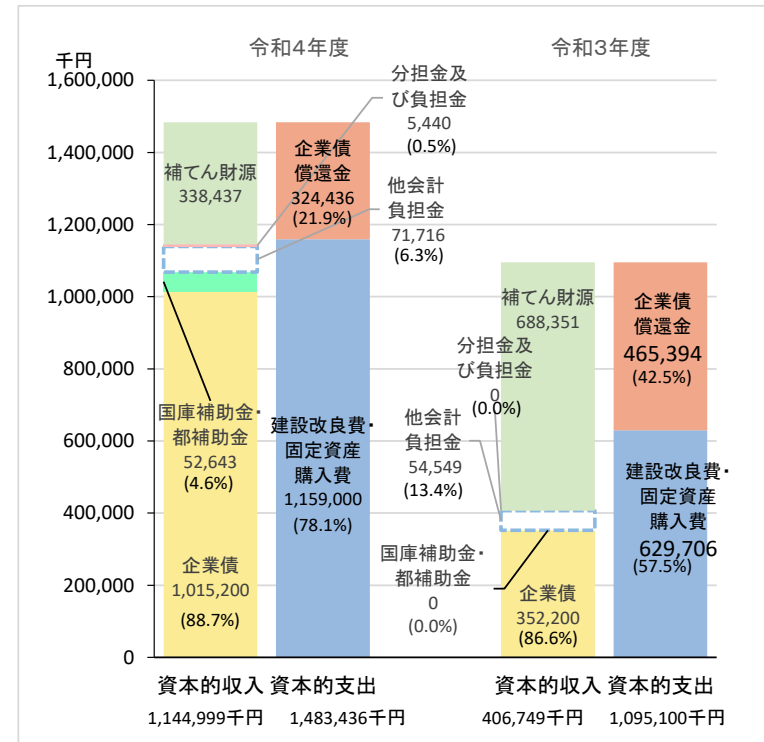
※資本的収支不足額については、減価償却費等の現金の支出を伴わない費用の計上により財源として蓄えられた資金等を補てん財源として補てん

事項	留保額 (使用可能額)	補てん額 (使用額)	差引残高
補てん財源	1,088,684	338,437	750,248

資本的収入は11億4499万9千円で、企業債借入額の増加等に伴い、前年度比7億3825万円の増となりました。

資本的支出は14億8343万6千円で、自然流下化事業費や老朽化・劣化対策事業の増加等に伴い、前年度比3億8833万6千円の増となりました。

収支差引で不足する3億3843万7千円を補てん財源で補てんした結果、補てん財源の差引残高は7億5024万8千円となりました。



工 貸借対照表

(消費税込, 単位: 千円)

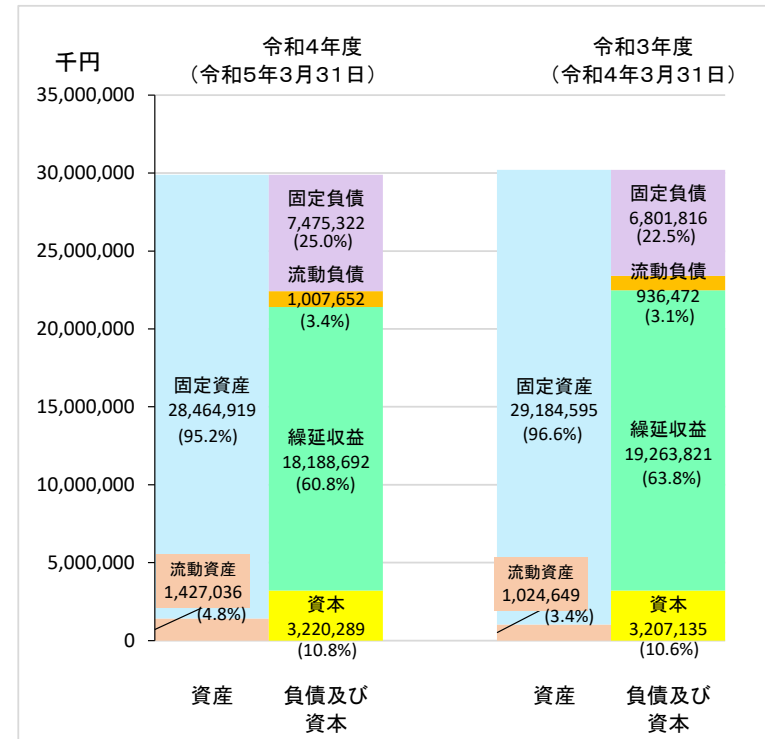
事 項	令和4年度 (令和5年3月31日)		令和3年度 (令和4年3月31日)		比較	
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
資産	29,891,955	100.0%	30,209,244	100.0%	△ 317,288	△1.1%
固定資産	28,464,919	95.2%	29,184,595	96.6%	△ 719,676	△2.5%
流動資産	1,427,036	4.8%	1,024,649	3.4%	402,387	39.3%
うち現金預金	1,198,764	4.0%	827,716	2.7%	371,048	44.8%
負債	26,671,667	89.2%	27,002,109	89.4%	△ 330,442	△1.2%
固定負債	7,475,322	25.0%	6,801,816	22.5%	673,506	9.9%
うち企業債	7,475,322	25.0%	6,801,816	22.5%	673,506	9.9%
流動負債	1,007,652	3.4%	936,472	3.1%	71,180	7.6%
うち企業債	341,694	1.1%	324,436	1.1%	17,258	5.3%
繰延収益	18,188,692	60.8%	19,263,821	63.8%	△ 1,075,128	△5.6%
資本	3,220,289	10.8%	3,207,135	10.6%	13,154	0.4%
資本金	3,253,315	10.9%	3,253,315	10.8%	0	0.0%
剰余金	△ 33,026	△0.1%	△ 46,180	△0.2%	13,154	-
資本剰余金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
利益剰余金	△ 33,026	△0.1%	△ 46,180	△0.2%	13,154	-
うち当年度未 処分利益剰余 金	△ 33,026	△0.1%	△ 46,180	△0.2%	13,154	-

※当年度未処分利益剰余金は、マイナス表記の場合、当年度未処理欠損金を表す

資産について、資産合計額298億9195万5千円のうち、固定資産が284億6491万9千円で前年度比7億1967万6千円の減、流動資産が14億2703万6千円で前年度比4億238万7千円の増となりました。なお、流動資産のうち、現金預金は11億9876万4千円で前年度比3億7104万8千円の増となりました。

負債について、負債合計額266億7166万7千円のうち、固定負債が74億7532万2千円で前年度比6億7350万6千円の増、流動負債が10億765万2千円で前年度比7118万円の増、繰延収益が181億8869万2千円で前年度比10億7512万8千円の減となりました。なお、負債のうち、企業債は都市計画道路等整備に伴う下水道整備、浸水対策事業、老朽化・劣化対策事業、自然流下化事業、流域下水道事業を行うために借り入れた結果、固定負債・流動負債の企業債残高は合計で78億1701万6千円となり、前年度比6億9076万4千円の増となりました。

資本について、資本合計額は32億2028万9千円で前年度比1315万4千円余の増となりました。



オ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	令和4年度	令和3年度	増減
業務活動によるCF	522,094	609,189	△ 87,095
投資活動によるCF	△ 841,810	△ 609,925	△ 231,885
財務活動によるCF	690,764	△ 113,194	803,958
資金増加額	371,048	△ 113,930	484,978
資金期首残高	827,716	941,647	△ 113,931
資金期末残高	1,198,764	827,716	371,048

※CFは、キャッシュ・フローの略

<業務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳>

投資活動・財務活動以外の活動による収入・支出

主な収入：下水道使用料，雨水処理負担金等による収入

主な支出：管渠補修工事費，下水道使用料徴収委託料等の管理運営費による支出

※決算書は、当年度純損益からの増減による間接法で表示するため、上記科目を直接表示していない

<投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳>

補助金，他会計負担金，分担金及び負担金による収入

固定資産の取得（建設改良費，固定資産購入費等）による支出

<財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳>

企業債（建設改良費等の財源に充当したもの）による収入

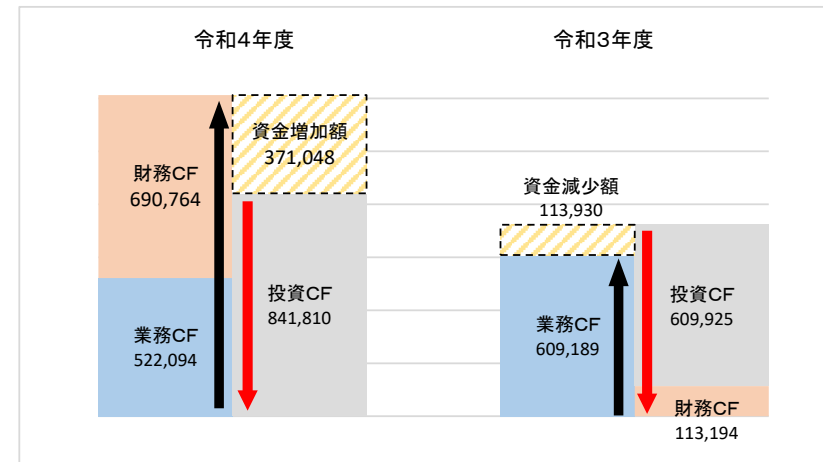
企業債（建設改良費等の財源に充当したもの）の償還による支出

業務活動による現金は、減価償却費の計上等に伴い、資金を下水道事業会計内部に留保したことにより、5億2209万4千円増加しましたが、下水道使用料収入の減等により、前年度比では8709万5千円の減となりました。

投資活動による現金は、工事進捗に伴う自然流下化事業費や下水道ストックマネジメント計画に基づく老朽化・劣化対策事業費、狛江市根川雨水幹線建設改良負担金等が増加したことにより、前年度比2億3188万5千円減少しました。

財務活動による現金は、起債対象事業費の増等により、企業債借入額（収入）が企業債償還額（支出）を上回り、前年度比8億395万8千円増加しました。

この結果、資金期末残高は11億9876万4千円となり、前年度比3億7104万8千円の増となりました。



カ 企業債残高・償還額・企業債利息の推移

(単位：千円)

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
借入額	254,100	231,800	459,200	352,200	1,015,200
償還高	211,777	238,425	262,441	465,394	324,436
うち繰上償還高	0	0	0	178,778	0
未償還残高	7,049,313	7,042,687	7,239,446	7,126,252	7,817,016
前年度比増減	42,323	△ 6,625	196,759	△ 113,194	690,764
借入利率	0.4%	0.3%	0.5%	0.7%	1.2%(1.0%)
利子償還高	112,543	109,179	108,057	101,209	97,608
繰上償還補償金	0	0	0	9,848	0
利子未償還残高	1,178,195	1,080,106	1,010,926	933,527	1,023,706
元利償還高	324,319	347,604	370,498	566,603	422,044
元利未償還残高	8,227,508	8,122,794	8,250,372	8,059,779	8,840,722

(備考)

・ピーク時の状況

借入額 48億3,200万円(昭和55年度)

借入利率 8.1%(昭和55年度)

未償還残高 約285億6,300万円(昭和57年度)

・令和2年度からの利子償還高は、未払費用の分を含む

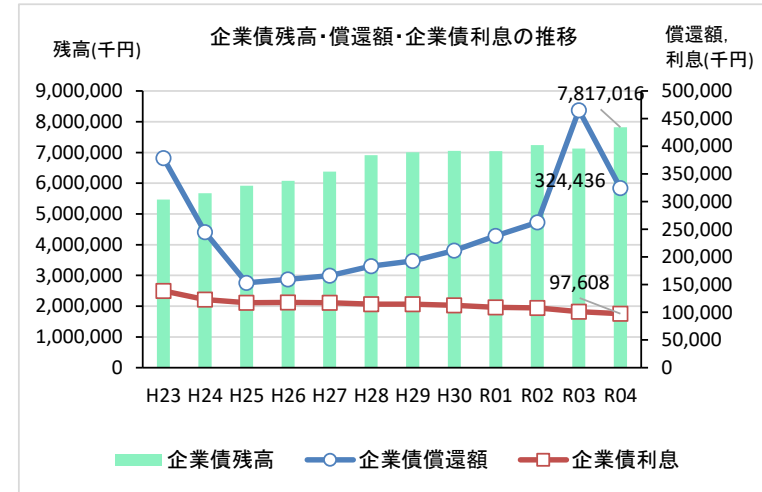
・償還期間は30年

(令和4年度借入分のうち、4,650万円のみ償還期間20年<借入利率1.0%>)

令和4年度は、都市計画道路等整備に伴う下水道整備、浸水対策事業、老朽化・劣化対策事業、自然流下化事業、流域下水道事業を行うために、10億1520万円の企業債を新たに借入れました。

一方で、当年度においては、繰上償還の必要が無く、借入時の予定どおり、3億2443万6千円の企業債元金を償還しました。また、企業債利息として9760万8千円を支出しました。

この結果、年度末時点の企業債残高は78億1701万6千円、利子未償還残高は10億2370万6千円となりました。



キ 剰余金計算書・欠損金処理計算書

剰余金計算書

(消費税抜、単位：千円)

	資本金	剰余金			資本合計
		資本剰余金	利益剰余金		
			未処分利益剰余金	利益剰余金合計	
前年度末残高	3,253,315	0.1	△ 46,180	△ 46,180	3,207,135
前年度処分別	0	0	0	0	0
当年度変動額	0	0	13,154	13,154	13,154
当年度純利益	0	0	13,154	13,154	13,154
当年度末残高	3,253,315	0.1	△ 33,026	△ 33,026	3,220,289

※△表記は、減少、損失又は欠損を示す

【剰余金計算書(貸借対照表の資本のうち、剰余金の年度中の増減内容を示す計算書)】

当年度変動額については、当年度純利益の計上に伴い、利益剰余金が1,315万4千円増加しました。

【欠損金処理計算書(剰余金計算書の未処理欠損金の処理についての計算書)】

当年度において、欠損金の処理は行いませんでした。

欠損金処理計算書 (消費税抜、単位：千円)

	未処理欠損金
当年度末残高	△ 33,026
処理後残高	△ 33,026